

# 1. 調査報告概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成20年10月17日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2774501155
法人名	もみの木有限会社
事業所名	もみの木のいえ
所在地	泉佐野市羽倉崎3丁目8番5号 (電話)072-466-3358

評価機関名	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成20年10月4日

## 【情報提供票より】(平成20年9月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成17年9月1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	11人	常勤	7人, 非常勤 4人, 常勤換算 6.3人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋一部木造 造り		
	3階建ての	1階	~ 1階部分

### (3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000~32,000円	その他の経費(月額)	35,000円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200円	昼食 400円
	夕食	400円	おやつ 昼食代に含む
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要 (平成20年9月1日現在)

利用者人数	8名	男性	1名	女性	7名
要介護1	1名	要介護2	2名		
要介護3	2名	要介護4	1名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 76.2歳	最低	56歳	最高	89歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人康生会 泉佐野優人会病院 ふじや歯科医院
---------	--------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

施設長が地域の福祉に役立ちたいという思いから、自宅を増改築してグループホームを立ち上げました。「明るく 楽しく 元気よく」との理念を管理者・職員が共有して日々の支援にあたっています。家庭的な雰囲気大切にしており、利用者の生き生きとした表情と笑顔が職員の誇りになっています。管理者が職員に対して敬意をもちながら支援しており、これからのサービスの質の向上を期待できるホームです。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連科目:外部4) 前回評価の改善項目は、職員間で改善のための話し合いを行い、改善に向けて取り組みました。入浴の回数に関しては、前回受審後すぐに改善しています。介護計画に関しては、個別ケア実施のための計画になっています。未改善の項目への取り組みは、今後取り組んでいく予定です。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者は職員に自己評価の意義を伝えています。評価作業も管理者と職員が情報を共有しながら取り組みました。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、欠席者には次回のお知らせの際に会議録を送付しています。会議の参加者は、市職員、町内会会長、民生委員、管理者のみでの開催が多くなっている状況です。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族へは、定期的に金銭管理の報告を行い、その時に生活状況も伝えています。今後は、ホーム便りの作成も計画されています。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホームでのそば打ち大会に地域住民や子ども会が参加したり、町内での行事に利用者が参加したり、地域とのつながりや理解を深める活動に積極的に取り組んでいます。地域住民に向けて認知症について理解してもらう機会や、市の敬老イベントに参加する予定も決まっています。

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『明るく、楽しく、元気良く』をホームの理念として掲げ、家庭的な雰囲気を目指して理念が作られており、パンフレットにも明文化されています。誰がきても笑顔で生活できることを大切にしています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関ロビーの壁に理念が掲げられてあり、職員は理念を共有し、利用者の表情と笑顔を誇りにしています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに務めている	地域の行事に参加しています。7月にはホームでそば打ち大会を行い、地域住民や子ども会にも参加してもらいました。地域での認知症の理解に関する話や市の敬老イベントに参加する予定もあり、地域とのつながりや認知症について理解を求める活動を積極的に取り組んでいます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は評価の意義を理解しています。自己評価については、管理者が職員に聞き取りながら作成しました。外部評価受審をサービス向上の機会ととらえ、積極的な姿勢です。評価結果については職員間で話し合い、改善に向けて取り組んでいます。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、欠席者には次回の開催予定とともに会議録を送付しています。参加者が、市職員・町内会会長・民生委員・管理者のみでの開催が多くなっています。また、会議に関する規定もありません。	○	運営推進会議を開催するにあたり、今後は委員の構成や開催方法等のルールを整理し、詳細が記載された規定、規約を作成することが求められます。また、多方面にわたる関係者から参加を得て、サービス向上やホームの理解に活かされることが望まれます。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日頃から、市の職員に相談や連絡をしています。前回の外部評価結果についても市へ報告しています。事故報告は今まで報告する事故が起きていないため行っていませんが、あれば迅速に報告する体制は整っています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族へは面会時に声をかけ、利用者の状況等を話しています。心身の状況変化は請求書の送付時にも家族へ伝えていきます。金銭管理に関しては、立替時に家族の了解を得ています。しかし収支報告の際、家族の確認のサインが得られていない状況です。今後はホーム便りを作成する予定です。	○	家族へは、残高・収支の報告を行っていますが、今後は家族が確認したことを示す署名と確認した日付を書面で残すことが求められます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会に来られた際、家族から意見を聞くようにしています。家族の意見や要望については、職員間で共有しています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職時には、ベテラン職員に新人職員が付き、一緒に仕事をすることで利用者に慣れてもらい、ダメージを最小限に抑えられるようにと配慮しています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	「感染症」の内容を含む外部研修に年2回参加していますが、会議で報告する程度で勉強会等の内部研修は実施していません。現在、外部研修等はその時の人員状況で検討しており、年間研修計画については今後の取り組みを検討しています。	○	研修は2回以上の外部研修を含む、年6回以上行うことと、そのうち研修内容として「緊急時対応」「認知症」「感染症」を含まれることが求められます。また研修内容を職員間で共有し、その記録を残すことも求められます。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大阪認知症高齢者グループホーム協議会に入会しています。市内の介護保険事業所との学習会や交流はありますが、同業者との交流はない状況です。現在、市内のグループホームとのネットワーク作りに取り組んでいます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者はグループホームの体験利用をして、馴染みながらの利用を実践しています。また利用前には、職員が入所施設や自宅を訪問するようにしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の得意分野を發揮してもらい、洗濯物干しや取り込み、洗濯物たたみ、テーブル拭きなど職員と一緒に作業を行っています。また新聞取りなどの役割や方言などを教わることがあります。利用者の表情から多くのことを学び、仕事に関する悩みやストレスも、利用者との関わりの中で解消できる関係を築いています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの生活歴や興味について、日々のケアの中で把握し、職員間で共有をしていますが、記録がありません。	○	利用者一人ひとりの思いや希望を引き出し、利用者と家族の希望を書面に記録しながら、介護計画に生かすことが求められます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式のアセスメントシートに変え、利用者の生活歴や思いを大切にした介護計画書を作成する努力をしています。面会回数が少ない家族からの同意がもらえていない状況です。	○	前回の外部評価受審時より改善を行い、個別ケアに向けた介護計画を作成しています。今後は、利用者や家族の要望や思いを介護計画に反映されることが求められます。また同意が得られにくい家族に対しては、電話での説明を行い、介護計画の送付にて同意を得る等、家族へ伝える方法を工夫されることが求められます。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回、定期的な見直しを行っています。しかし、モニタリング、カンファレンスが実施されていない状況です。	○	アセスメント・モニタリング・カンファレンス・介護計画は4点セットです。モニタリング、カンファレンスで意見を出し合い、よりその人らしい介護計画につなげることが求められます。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	38	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の都合がつかない場合の通院介助や、外出の付き添い等、生活の継続が図れるように支援しています。また、グループホームの専門性を活かして、地域住民に認知症の理解に向けた話をするとも考えています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者がそれぞれ希望する、かかりつけ医師で引き続き医療が受けられるように、利用者・家族の希望を尊重した支援を行っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方については、家族に説明をして理解を得ています。グループホームでの生活が困難になった場合は、利用者・家族が安心して移行できるように支援していくことになっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーについては、ミーティングの時や職員の引継ぎ時に話をしています。個人情報の保護に関しても、就業規則で明文化し、確認しています。しかし、居室にはオムツが丸見えに置かれている状況でした。	○	オムツは他人に見られたくない物であるため、外部から見えないところにしまおうか、もしくは布をかぶせる等、利用者の気持ちを汲み取り整理する工夫が求められます。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は決まっておらず、利用者一人ひとりの体調に配慮しながら、その時の利用者の気持ちを尊重した支援を行っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳の用意やテーブル拭き等、食事を楽しむ雰囲気作りに配慮しています。介助の必要な利用者が増え、職員は声かけをしながら食事介助を行い、時間差で職員も食事を摂っています。買い物が好きな利用者は週に1回、職員と共に買い物に出かけています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	前回の外部評価受審後すぐに入浴について職員間で検討を行い、現在はいつでも入浴ができる体制を整えました。利用者は希望時に入浴でき、週3回以上入浴を楽しんでいます。入浴を好まれない利用者には、前日から声をかけるなどの支援を行っています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野で力を発揮してもらえるように、ホーム内の巡回や掃除、洗濯物たたみや新聞取り等、利用者一人ひとりに合った役割を持ち、また将棋を楽しむなど、生活の張りになるよう支援しています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩に行く機会を持ち、希望される利用者とともに出かけています。日常生活動作の状態によって頻繁に出かけることは困難であっても月に数回は出かけています。		



外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関に鍵はかかっています。また身体拘束もありません。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	管理者が防火管理者講習を受講し、これから体制を整える状況です。現況は、災害発生時マニュアルは作成していますが、避難訓練が行われておらず、非常食や水などの備蓄もありません。非常口に鍵はかかっていますが、容易に開けられる状態になっています。	○	今後、火事や地震等災害の発生時に、利用者が安全に避難できるように、避難訓練の実施と災害時に必要な非常食品や水等、備品の準備が求められます。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事量の記録や、水分摂取量の記録もあります。献立は毎日、利用者の意見を聞きながら立てています。	○	利用者と一緒に毎日の献立を考える家庭的な雰囲気大切にしています。しかし、提供されている食事の内容について、時々専門家の意見を聞き、カロリー計算や栄養バランスのチェックを行うことが求められます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物全体が光や外の空気が十分に取り込めるような構造になっています。共有スペースの居間はフローリングでありながら、畳ベッドを設置することで利用者が寛ぎながら過ごせる工夫がされています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはそれまでの使い慣れた家具を置いています。利用者によっては仏壇や、美容の道具、テーブルやイスなどもあり、利用者一人ひとりの生活スタイルにあった空間づくりがされています。		